

【成長戦略研究】

ブロイラーにおける暑熱時の生産性低下防止技術の開発(R3～R5)

畜産酪農技術センター

背景・目的

ブロイラーは暑熱時には過呼吸状態に陥ることで摂食量が低下し、**生産性の低下**や**肉質の悪化**が**おこり**、**最悪の場合死**に至る。



発生防止技術として

本県で開発した飼料への重曹投与技術は、全国での夏期のブロイラー生産でほぼ100%利用されている

新たな技術として

暑熱時の生産性改善に効果があるといわれている

- 1) 有機酸、アミノ酸 → 暑熱ストレス緩和作用を有する資材の利用
- 2) 炭酸ファインバブル水 → 過呼吸により放出される血中ガス分圧を調整する

※炭酸ファインバブル水: 直径0.1ミクロン～100ミクロンの微細な炭酸ガスを含む水



炭酸ファインバブル水や有機酸及びアミノ酸を利用した
ブロイラーの暑熱対策技術を開発する

研究内容

1年目、2年目

1) 炭酸ファインバブル水 給与効果の検討

炭酸ファインバブル水の給与効果の検討

2) 有機酸及びアミノ酸の給与 効果の検討

クエン酸やアルギニンの給与効果の検討

事業費：1,933千円 (R3)
1,957千円 (R4)

3年目

1) 炭酸ファインバブル水、 有機酸、アミノ酸の 併用効果の検討

2年間で効果のあった
資材の併用効果の検討

事業費：1,957千円 (R5)
総額：5,847千円

期待される効果

- 熱射病の発生減によるへい死数の減少(生産の安定化)
 - へい死鶏処理にかかるコストの低減
 - ヒナの過剰な導入が必要なくなる
- 生産性の向上より農家の収益性が増加
- 肉質の改善により良質な鶏肉の供給が可能
- 暑熱対策として甲州地どりや他畜種への応用も期待できる



共同研究者:(株)御池鐵工所